

鳩摩羅什が出会ったこと

大谷大学公開講演会

采翠 晃

• で-あ・う 【出合・出会】

1. 出て行ってあう。出迎える。また、出て行って落ち合う。男女がしめし合わせて会う。密会する。
2. 出て立ち向かう。出て行って争う。出て行って相手となる。
3. **偶然に人やできごとなどに会う。行きあう。出くわす。遭遇する。**
4. 付合する。ぴったりあう。
5. 道と道とが交差する。また、道と道とが合流する。

(『日本国語大辞典』 小学館)

一般的な鳩摩羅什の評価

- 大訳経家

- 『妙法蓮華経』や『阿弥陀経』などを漢訳した。
- 龍樹（八宗の祖）の思想を中国に紹介した。
多くの宗派の教学に影響を与えた。
- 玄奘三蔵とならぶ大訳経家である。

- 破戒僧

- 女犯の僧

鳩摩羅什の生涯（概略）

- 王の妹と元国師の間に生まれる。
- 既に出家していた母に誘われて出家。
- 過剰にチヤホヤされるのを避けるために、母親に連れ回される。
- 軍隊によって故国を亡ぼされ、拉致される。
- 破戒を強要される。
- 得意の論議では、能力を発揮する機会を得られなかった。
- ほとんど価値を認めていない翻訳作業に従事し続けなければならなかった。
- 10年ほどの活動の後に、亡くなる。

鳩摩羅什の生涯を確認すると、

- 主体的な選択というものがほとんど見られない。
- そもそも、主体的な選択など不可能であった。

- 「抗うことができない状況」に対して、鳩摩羅什は常に受身であった。

- 「主体的」が素晴らしくて、「受身」が忌避すべきなのは何故か？
- 現在一般的な考え方では、納得できる理由があれば、望ましくない状況でも受容することができる。
 - 納得できる理由 = 「私が選んだから」
- 主体的になれる（コントロール可能な）世界だけしか見ようとししない。

- 鳩摩羅什は、抗うことができない状況に対して、
極めてしなやかに方針転換をしている。

- あるべき（ありたい）姿に固執するのではなく、
新たなあり方へと柔軟にシフトしていく。

- 鳩摩羅什は、抗うことができない状況に対して、
極めてしなやかに方針転換をしている。

忍辱にんにく

- あるべき（ありたい）姿に固執するのではなく、
新たなあり方へと柔軟にシフトしていく。

忍辱

- 菩薩が行ずべき徳目である「六波羅蜜」の一つ。
- 侮辱や苦しみに対して、
~~耐え忍ぶ（我慢する）こと~~
心を動かさないこと。

鳩摩羅什が出会ったもの

- コントロール可能な部分だけに限定された狭い世界だけではなく、
抗うことのできない状況を含めた広大な世界に出会った。

法界（諸法が生じる境界）



大谷大学

Be Real
寄りそう知性